方針 トは りの推進から



丽年度決算を踏まえた予算編成 針は

効活用

財源を町民のために

門 平成21年度決算の課 換に努め、適正な財源確 横断的な情報の共有や交 度当初予算編成にどのよ 出し合い、組織を超えた 町財政状況が極めて厳し 基本的な考えは。 うに反映していくのか 体的かつ積極的に知恵を 町 たり、社会状況及び長 新年度予算編成にあ 意見、要望等を平成23年 人ひとりが認識し、 状況にあることを職員 題、問題点に対する 主

中学校教員による小学校 円滑かつ計画的に推進し、 る小中教務会議を中心に 町 学校教職員で構成す長 本年度設置した小中

予算については、第5次

また、平成3年度当初

【期総合計画を現在策定

運営を目指すよう指示を

しにより持続可能な財政

したところである。

保と徹底した経費の見直

限られた財源を町民のた めに最大限有効活用でき づくりが進められるよう 民と行政が協働してまち ていくが、その基本は、町 小中一貫教育など継続的 の医療費無料化や子宮頸 え、中学生以下の子ども 中であることなどを踏ま な施策を引き続き実施し がん予防ワクチン接種、

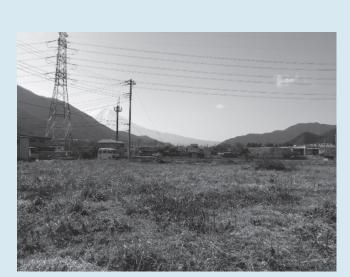
再て、引き続き取り組 る予算編成を考えている。 るような事業展開のでき 今後の展開は。 んでいくとの答弁だが、 次年度から生活指導やキ 今後の展開としては、

り組み、さらにそれを基 実に取り組んでいく。 に一貫へと時間をかけ着 盤に連携、そして最終的 年間の教育課程作りに取 ャリア教育の分野等で9

服するための効果を上げ きるようになっている。 よりきめ細かい指導がで 行えるようになるなど、 行事が計画的・効率的に 置したことで、小中連携 中一貫教育主任を町で設 ることができた。また、小 から、中1ギャップを克 よる文化交流会等の活動 出前授業や、児童生徒に



中学校教員による小学生への出前授業



有効活用が期待される町有地

年度了 成23 書 ち

有効活用に向け り組む

問

公有財産の活用は

住宅用火災警報器の普及対策は

周場所の利便性の問題 さのある長塚用地や県道 の有効活用は。 5㎡の小沼柳溝用地など れれば活用が有望な79 富士吉田西桂線が供用さ のうち、 ない土地などの公有財産 んどが有効活用されてい などから、 2786㎡と広 そのほと

西桂線の代替用地として 溝用地は、県道富士吉田 的な進展はない。また、柳 町 企業からの問い合わ せもあるが、今現在具体 な本町では、野菜の水耕 が、公有財産の活用は。 の誘致などが考えられる 栽培や淡水魚の養殖業者 例として、 水の豊富

> 的な条件からも適地適産 野菜の水耕栽培や淡水魚 策であり、 確保や雇用の創出などの であるが、このような経 の養殖などは当町の地 面からも非常に有効な方 含め、新たな自主財源の ては、優良企業の誘致を 公有財産の活用につい 議員ご提言の 理

携を図る中で、今後も鋭 意取り組んでいく。 係機関と情報を共有し の産業立地推進課など関 めの企業誘致の実現が難 済状況下で産業振興のた しい状況にあるため、県

関係団体を介し周知活動を強化

門 平成3年6月から全 宅に警報器の無償設置を 器の無償提供、 体の中には、 報器について、 付けられる住宅用火災警 家庭での設置が義務 全戸に警報 近隣自治 高齢者住

認識しているが、 配布を行っていることは 治体で火災警報器の無償 15%の改善となっている。 6月に行った調査に比べ 普及率は40%であり、前回 当町の住宅火災警報器の 町 調査で、11月現在の 財政状況等を考慮すると、 比較的財政が豊かな自

> ドの配布などの普及活動 ため、これまでチラシの 同様の施策の実施は非常 全戸配布や消防団を介し に難しいところである。 を実施してきたが、今後、 ての呼びかけ、確認カー などが6割を占めている 「設置まで猶予がある」 義務化を知らなかった 未設置の理由として

> > 再問高齢者世帯へ 災警報器の展示や広報誌 役場庁舎内への住宅用火 に行なっていく。 、の掲載などPRを強力 への周 知

委員を介して戸別周知や を利用して周知を行う。 望まれるため、 いきいき交流会などの場 町の火災警報器設置が長高齢者世帯へは早期 地区民生

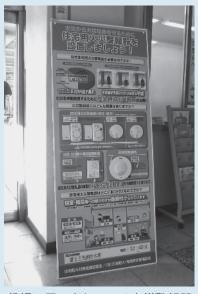
当町における警報器の普

実施する自治体もあるが、

及率と普及に向けた今後

の対策は。

消防団などとも連携し、



役場に展示されている火災警報器

川村町長からの 報告

子育て支援 月から

人と自然の共生を!

循環型地域社会の形成 やまなし森づくりコミ

備に努力。 有地1.9hの下刈りを 実施し、環境保全林の整 ッション等の協力により 三ツ峠神鈴の滝周辺の町

子どもに元気を!

り10月18日より、改装後 工式も終わり、予定どお の保育所で保育を再開 子育て支援方策の推進 保育所増改築工事は竣 保育所内に設置する太

災害時に倉見。小沼地区を結 する子育て支援の拠点と ない乳幼児と保護者に対 指して、工事を実施中。 して、保育所内に子育て 保育所等に入所してい

> 育士を配置し平日午前10 12月1日から、2名の保 支援センターを設置し、 時より午後3時まで運営

教育環境の充実

携による小中合同あいさ 育の推進に努力。 会の実施等、小中一貫教 回の小中連携・運営委員 校出前授業の実施、 の数学科教師による小学 つ運動の実施や、中学校 児童会・生徒会等の連 月 1

シニア世代に活力を!

活動の活性化 健康・生きがいづくり

成23年1月末の完成を目 陽光発電システムは、平

クを再度実施 平成23年3月に人間ドッ 実施、受診率向上のため 診は、11月末で全7回を た特定健診及びガン検 内臓脂肪型肥満に着目

町民に快適な生活を!

ライフラインの確保簡易水道事業の推進

年1月末の完成に向け努 管布設替工事は、平成23 下暮地河原地区水道本

災害に強いまちづくり

が完了し、平成23年3月 線拡幅工事は、用地交渉 対策事業の町道郷土5号 広域的な道路体系の確立 は年度内には完成。 する桂大橋落橋防止工事 国道139号渋滞緩和 国庫補助を受けて整備

地域に活力を!

完成に向け工事着手。

アピール ふるさと西桂の戦略的

り、第1回三ツ峠登山キ 三ツ峠活性化会議によ

> の施策を継続展開。 び賑わいを取り戻すため あり、今後も三ツ峠に再 外から333名の参加が キングツアー等に、県内 ら4日までの10日間実施 ャンペーンを10月15日 プラリーや三ツ峠トレ し、三ツ峠めぐりスタン

る農林業振興 都市部との交流に資す

サツマイモ収穫祭を10

済

平成23年3月完成に向け工事が進む郷土線

月に開催し、 参加を得る。 227名の

町政に町民パワーを!

働による町政の推進 町民参画、 町民との協

ほとんどを年内中に実施 の要望事項72件は、 平成22年の区から町へ その

ることができた。

一般質問のその後



あの質問はどうなったずら

平成2年3月定例会

質問

二ツ峠登山道整備

整備の取り組みは。 えられるが、町の活性化につながる三ツ峠登山道として、だるま石から先の登山道の整備不足が考として、だるま石から先の登山道の整備不足が考

答弁

緊急雇用事業にて実施

また、登山道整備以外にも、三ツ峠駅前や駅構また、登山道整備していたが、県へ要望を行った結果、県から山梨県緊急雇用創出事業臨時特例基金果、県から山梨県緊急雇用創出事業臨時特例基金をできることとなった。

三ツ峠登山道整備は、 三ツ峠登山道整備は、 122年6月から実施し、 平成22年6月から実施し、 平成22年6月から実施し、 ア成22年6月から実施し、 7した。

神鈴の滝付近では全ての降り口から三ツ峠を望めるよう雑木林を伐採しめるよう雑木林を伐採しを行い、また、町民憩いの森付近ではうつそうとしていた八十八大師といては、地元業者の奉仕いては、地元業者の奉仕いては、地元業者の奉仕や清掃等を実施し、 登山や清掃等を実施し、 登山や清掃等を実施し、 登山

また、登山道整備以外にも、駅前や駅構内へ多言語による三ツ峠等のトレッ合案内看板を設置し登山合案内看板を設置し登山合案内看板を設置し登山方、三ツ峠等のトレッー方、三ツ峠等のトレットも作成し、役場窓口やトも作成し、役場窓口やや三ツ峠登山キャンペー

三ツ峠は昭和45年には、活動を行っている。

居野力していく。 三ツ峠は昭和45年には、 三ツ峠は昭和45年には、 年間約22万人が登下山し を継続的に実施し、三ツ を継続的に実施し、三ツ を継続のに実施し、三ツ をがありに変がし、三ツ をがありに変がし、三ツ をがありに変が、一次では、 一次では、 一がないる、 一がないる。 一がないる、 一が



-10 月に開催された三ツ峠登山キャンペーン

吉

反映させてまいりますので、積感想などを今後の議会活動に皆さんの貴重なご意見・ご 皆さんの貴重なご意どを募集しています。 極的なご参加をお願いい を通じて町議会や町に望むこの桂町議会では、議会だより 議会だよりを読んだ感想な

町民体育祭に参加しまし た。各地区でそれぞれの 、 特色があり楽しかったで す。しかし、毎年若い人達 の参加が少なくなってい るようで淋しい気がしま す。種目では、小さな子供 から高齢者までが参加で きるものがあるので、た くさんの町民が参加し楽 しい体育祭にできたらい

いと思いました。

保育所も新しく生まれ変わり、 子供たちもとてもいきいきして いるように感じられます。小さ な町だからこそ、住民の要望や 声など取り入れていただきやす く、すぐ実行に移してもらえる のでしょうか?これからも、 我々住民のため、この町の将来 を担う子供たちのため、すみ良 い西桂町を目指して頑張って欲 しいと思います。

面框的三块色指约、 三口牌活性化会議外設立 され10月15日から10月間盛大に イベントか行けられましたから後も 年2回程度(麗如草。時期、 紅栗の時期)三、峠と倉則に 題かいか戻る様でかントを12 ほいですねノ

国保公計发况主読也不熟述 非常におりきし訳録も及め これから自分行身健康、人気分 心剤かて行きないと思るは

町村議会広報コンクルバおいて 左额纸部内·1入選, 罗真部州で特 選に選ばれまれた、めが事のように特 しく思いれば、かめでとうございます できないは広報纸部門で見非入覚でいたさなく、一研覧の程が扱いたし ft. 顽强比编集专员!

報目》分一几65号 特選。入選受賞



去る平成22年10月28日、第28回県 町村議会広報コンクール表彰式が行 われ、当町議会だより第66号が、写真 部門で特選を、第65号が広報誌部門 で入選を受賞しました。

クイズ正解者のうち抽選で10名の方に、 町の特産品をプレゼントします。

問題:12月から開設された西桂町子育て支援 センターはどこの施設に併設されている?

答え:① 保育所

② いきいき健康福祉センタ

③ YLO会館

応募方法: ①~③の答えの数字と住所、氏名、電話 番号、議会だよりを読んだご意見ご感想を書いて、 はがき、FAX、E-Mailにてご応募ください。

締切は2月25日(当日消印有効)です。当選者の 発表は発送をもって代えさせていただきます。

〒403-0022 西桂町小沼1501-1 西桂町議会広報編集委員会 TEL 0555-25-2121 FAX 0555-20-2015 E-Mail gikai@town.nishikatsura.yamanashi.jp

写真募集中 採用された方には記念品を贈呈



固定資産評価審査委員





むことは。

問 今後の目標や何

か望

修への参加などを行って

ア活動への協力、各種研 共同募金等のボランティ 業への協賛や、赤い羽根 体育祭、夏祭りなどの ことなどを目的に、 代表 梅田美津子さん

取材 宮下・渡辺隆

高め、地位の向上を図る 代表42名で、今日は正副 や班長など各地区からの 梅田さん 役員は支部長 梅田さん 婦人の教養を 支部長以上の会合です。 活動目的と内容は。 役員の人数は。

で、この役を受けました。 ときにできることをやっ 方に助けていただいたの 地域のために、できる 私達は、今まで地域の

皆さん 地域の方の協力 れあいながら仲間づくり 梅田さん 多くの人とふ 動内容を理解してほしい をし、自己研鑽していき



ふるさと夏まつりに盆踊り参加



町の

事

救急救命訓練

次の定例会は3月です。 傍聴してみませんか。

議会だよりや議会全般、町行政についてのご質問・ご意 見・ご感想をお待ちしています。寄せられましたご質問・ ご意見等には議会広報編集委員が責任を持ってお答えい たしますので、下記までお寄せください。

〒403-0022 西桂町議会広報編集委員会 TEL 0555-25-2121 FAX 0555-20-2015 E-Mail gikai@town.nishikatsura.yamanashi.jp













年は卯年ですので、おお

いに飛躍を望みたいとこ

お慶び申し上げます。

き新年をお迎えのことと

渡辺

変わらぬご支援とご指導 厳しさが予想されます。済活動等を中心に一層の をお願いいたします。 の努力をいたしますので、 を通じて町政の行き先を ならないと思っています。 しっかりと伝えなければ 広報委員一同なお一層 町民の皆様には、広報

ます。町民の皆様には良 新年おめでとうござい

まらない迷走を続け、経とは裏腹に、着地点の定

まらない迷走を続け、

抱いていましたが、期待 くが大きな期待と希望を

政権が変わり、国民の多さて、中央においては、